

## 安全データシート

改訂日: 2022年9月2日

## 1. 製品及び会社情報

化学品の名称  
推奨用途  
会社名  
住所  
電話番号

フタル酸ジメチル  
試験研究用  
米山薬品工業株式会社  
大阪市中央区道修町2丁目3番11号  
(06)6231-3555(大阪・本社)  
(03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田)  
(052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)  
FC0389

整理番号

## 2. 危険有害性の要約

GHS分類

健康に対する有害性

眼に対する重篤な損傷性・目刺激性: 区分2B  
特定標的臓器毒性: 区分3(麻酔作用、気道刺激性)  
(単回ばく露)  
水生環境有害性 短期(急性): 区分3

環境に対する有害性

ラベル要素

絵表示又はシンボル



注意喚起語

危険有害性情報

警告

眼刺激

呼吸器への刺激のおそれ

眠気又はめまいのおそれ

水生生物に有害

注意書き

【安全対策】

粉じん/煙/ガス/蒸気/スプレーの吸入を避けること。

取扱い後は手などをよく洗うこと。

屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

環境への放出を避けること。

【応急措置】

吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

気分が悪いときは医師に連絡すること。

眼の刺激が続く場合、医師の診断/手当を受けること。

【保管】

容器を密閉し、涼しく換気の良いところで保管すること。

施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物、容器を国又は都道府県の規則に従って廃棄すること。

## 3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別

化学名

化学物質

フタル酸ジメチル

ジメチルフタレート、フタル酸メチル

化学式

 $C_6H_4(COOCH_3)_2$ 

化学物質を特定できる一般的な番号

CAS RN: 131-11-3

成分及び含有量

フタル酸ジメチル100%

官報公示整理番号(化審法、安衛法)

(3)-1301

その他

HSコード: 2917.34

## 4. 応急措置

吸入した場合

被災者を新鮮な空気のある場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪い時は、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

皮膚を速やかに洗浄すること。

皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。

気分が悪い時は、医師に連絡すること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。

気分が悪い時は、医師に連絡すること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。

気分が悪い時は、医師に連絡すること。

予測できる急性症状及び遅発性症状の最も重要な兆候症状

眼、皮膚、呼吸器に対する刺激性。

## 5. 火災時の措置

適切な消火剤

粉末消火剤、一般の泡消火剤、二酸化炭素、砂、噴霧水

使ってはならない消火剤

棒状注水

特有の危険有害性

加熱により容器が爆発するおそれがある。

加熱あるいは水の混入により容器が爆発するおそれがある。

特有の消火方法	加熱あるいは水の混入により容器が爆発するおそれがある。 火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するおそれがある。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。
消火を行う者の保護	
6. 漏出時の措置 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	作業者は適切な保護具を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 風上に留まる。 低地から離れる。
環境に対する注意事項	河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	環境中に放出してはならない。 回収、中和：少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。 封じ込め及び浄化の方法・機材：危険でなければ漏れを止める。 二次災害の防止策：すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	
技術的対策(局所排気、全体換気等)	『8. 暴露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
安全取扱注意事項	『8. 暴露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。 火気注意。 接触、吸入又は飲み込まないこと。 空気中の濃度をばく露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。 ミスト、蒸気、スプレーの吸入を避けること。 眼との接触を避けること。 取扱い後はよく手を洗うこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 環境への放出を避けること。 酸化剤
接触回避	
保管	
安全な保管条件	保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。 保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設けること。 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。 容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。 施錠して保管すること。 ガラス
容器包装材料	
8. 暴露防止及び保護措置	
許容濃度	
管理濃度	未設定
日本産業衛生学会	未設定
ACGIH	TLV-TWA 5mg/m <sup>3</sup>
設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 高熱工程でミストが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。 高熱工程でガスが発生するときは、空気汚染物質を管理濃度・許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。
保護具	
呼吸器の保護具	適切な呼吸器保護具を着用すること。
手の保護具	適切な手袋を着用すること。
目の保護具	適切な眼の保護具を着用すること。
皮膚及び身体の保護具	保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型) 体を覆う衣服以外に予防措置は必要ない。
9. 物理的及び化学的性質	
物理状態	油状液体
色	無色～淡黄色
臭い	芳香臭
融点/凝固点	5.5℃
沸点又は初留点及び沸点範囲	284℃
燃焼性	非該当
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	下限 0.9vol%(180℃), 上限 8.0vol%(109℃)
引火点	146℃(密閉式)
自然発火温度	490℃
分解温度	該当情報なし。
pH	該当情報なし。
動粘性率(粘度)	17.2mPa・s
溶解度	0.43g/L(20℃, 水) アルコールと混和する

n-オクタノール/水分係数	log Pow=1.60
蒸気圧	0.41Pa(25°C)
密度及び/又は相対密度	1.1940(20/20°C)
相対ガス密度	6.69(空気=1)
蒸発速度	該当情報なし。
10. 安定性及び反応性	
反応性、化学的安定性	通常の取扱状態では安定。
危険有害反応可能性	通常の取扱状態では安定。
避けるべき条件	高温
混触危険物質	酸化剤
危険有害な分解生成物	燃焼時に一酸化炭素、二酸化炭素を発生する。
11. 有害性情報	
急性毒性	経口 : ラット LD50値6.8 g/kg (ACGIH (7th, 2006)), 8,200 mg/kg (環境省リスク評価第1巻(2002)、PATTY (6th, 2012)), 8,400 mg/kg (NTP TR429 (1995)) に基づき区分外とした。
	経皮 : ウサギ LD50値 $\geq$ 10,000 mg/kg (NTP TR429 (1995)), > 10 mL/kg (換算値: 11.9 g/kg) (ACGIH (7th, 2006)、PATTY (6th, 2012)) に基づき区分
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	吸入 : 該当情報なし。(分類できない) ACGIH (7th, 2006)、PATTY (6th, 2012)) でウサギの皮膚に90日間、本物質を反復適用した試験において皮膚刺激性は認められなかったとの記述、環境省リスク評価第1巻(2002)及びACGIH (7th, 2006) でヒトにおいて皮膚刺激性は報告されていないとの記述から、JIS分類基準の区分外(国連分類基準の区分3)とした。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	ウサギ3匹を用いた眼刺激性/腐食性試験 (EEC Directive 79/831/EEC 及び OECD TG 405準拠) では、角膜損傷及び虹彩の炎症はみられなかった。軽度の結膜刺激のみが、3/3例にみられたが、適用後2-3日で完全に回復したとの記述 (IUCLID (2000)) から、区分2Bとした。
呼吸器感受性又は皮膚感受性	呼吸器 : 該当情報なし。(分類できない) 皮膚 : 皮膚感受性: IUCLID (2000) には、ヒトパッチテストの結果が5件報告されており、いずれも陰性結果であるが、詳細不明である。環境省リスク評価第1巻(2002)、ACGIH (7th, 2006) にはヒトで感受性の報告はないとの記述があるが、感受性を明確に否定できる動物実験データはない。以上の情報に基づき、区分外とするにはデータ不足のため分類できないとした。
生殖細胞変異原性	分類ガイダンスの改訂により「区分外」が選択できなくなったため、「分類できない」とした。In vivoでは、マウス及びラットを用いる優性致死試験で陰性 (ACGIH (7th, 2006)、IRIS (2012)、IUCLID (2000))、ラット及びマウスの骨髄赤血球を用いる小核試験 (NTP DB (Access on September 2013)) 及びラット及びマウスの染色体異常試験 (IUCLID (2000)) で陰性である。In vitroでは、細菌の復帰突然変異試験でほとんどで陰性 (ACGIH (7th, 2006)、NTP DB (Access on September 2013)、NTP TR429 また、哺乳類培養細胞を用いるマウスリンフォーマ試験で陽性 (ACGIH (7th, 2006)、IRIS (1990)、IUCLID (2000))、染色体異常試験で陰性 (ACGIH (7th, 2006)、NTP DB (Access on September 2013)、NTP TR429 (1995)、IUCLID (2000)) である。
発がん性	EPAでDに分類されている (IRIS (1990)) ことから、分類できないとした。分類ガイダンスに従い、区分を変更した。
生殖毒性	データ不足のため分類できない。発生毒性に関しては、環境省リスク評価第1巻(2002)、ACGIH (7th, 2006)、NTP TR429 (1995)、NTP DB (Access on September 2013) のラットを用いた妊娠中混餌経口投与試験において母動物に一般毒性が認められた用量でも発生毒性は認められなかったとの記述、ならびにACGIH (7th, 2006)、NTP TR429 (1995) のマウスに混餌経口投与した試験において母動物に一般毒性が認められた用量で胎児に異常はみられなかったとの記述が得られた。しかし、生殖能に関する情報がないことからデータ不足のため分類できないとした。List3の情報源を削除し、List1の情報源を追加した。
特定標的臓器毒性(単回暴露)	環境省リスク評価第1巻(2002)、ACGIH (7th, 2006)、及びNTP TR429 (1995) のヒトで経口摂取による昏睡の記述から、麻酔作用を示すと判断し、区分3(麻酔作用)とした。またヒトにおいて気道刺激を起こす (ACGIH (7th, 2006)) との記載から区分3(気道刺激性)とした。
特定標的臓器毒性(反復暴露)	ウサギに33日間経皮ばく露した試験において、区分2を超える用量(ガイダンス値換算値: 1,750 mg/kg/day) を適用しても毒性影響は見られていない (ACGIH (7th, 2006))。すなわち、経皮経路では区分外相当であるが、他の経路での毒性情報がなく、データ不足のため分類できない。
誤えん有害性	該当情報なし。(分類できない)
12. 環境影響情報	
生態毒性	短期:(急性) 魚類(シブスヘッドミノ)の96時間LC50 = 29000 $\mu$ g/L (環境省リスク評価第1巻(2002)) 他から、区分3とした。 長期:(慢性) 急速分解性があり(BODによる分解度: 93% (既存化学物質安全性点検データ))、かつ生物蓄積性が低いと推定される(log Pow = 1.6 (PHYSPROP Database (2005))) ことから、区分外とした。
残留性・分解性	該当情報なし。(分類できない)
生体蓄積性	該当情報なし。
土壤中の移動性	該当情報なし。
オゾン層への有害性	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。(分類できない)
13. 廃棄上の注意	
化学品、汚染容器及び包装の安全でかつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報	産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。

## 14. 輸送上の注意

国連番号

—

品名(国連輸送名)

—

国連分類

—

容器等級

—

輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策

危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載すること。  
 危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬すること。  
 危険物の運搬中危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。

国内規制がある場合の規制情報

陸上輸送

消防法の規定に従う。

海上輸送

船舶安全法の規定に従う。

航空輸送

航空法の規定に従う。

応急措置指針番号

—

## 15. 適用法令

化学物質管理促進法(PRTR法)

指定化学物質に該当しない。

毒物及び劇物取締法

毒物及び劇物に該当しない。

消防法

第4類引火性液体第三石油類非水溶性液体(第2条第7項危険物別表第1名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物(第57条及び施行令18条、第57条の2及び施行令18条の2)[フタル酸ジメチル])

労働安全衛生法

危険性又は有害性を調査すべき物[フタル酸ジメチル]

海洋汚染防止法

Y類有害液体物質(施行令別表第1)

## 16. その他の情報

参考文献

NITE—CHRIP(製品評価技術基盤機構HP)

16615の化学商品(化学工業日報社)

職場のあんぜんサイト(厚労省HP)

記載内容のうち、含有量、物理／化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報 データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。